

3 附帯事項等に対する履行状況等

| 区 分 | 附 帯 事 項 等 | | 履 行 状 況 | | 今後の の実施計画 |
|------------------------------|---|------|--|-----|--------------|
| 認 可 時 (令和元年度) | <p>建築・設備工学科について、ここ3年間で入学生が増えているがそれ以前の数年間は定員割れの状況であったことも踏まえ、合格者数や歩留まり率等も含めて分析するなど、長期的かつ安定的な学生確保に努めること。</p> | 遵守事項 | <p>平成27年度以前の入学者は、入学定員を大きく割り込み、平成24年度から27年度の平均入学者数は入学定員の74%で、志願者数が平均で入学定員の1.46倍の志願者状況であった。</p> <p>・定員割れの原因についての対応として、平成28年度より建築・設備工学科内の設備関係の教育充実と建築士関係の資格を重視した他大学との差別化を図り、資格取得等の幅広い広報戦略の見直しを行った結果、平成28年度から平成30年度の志願者状況が入学定員の3.23倍に増加し、入学者数が安定的な確保に繋がった。今後も、学生募集の更なる強化とともに、大学を取り巻く状況への対応を図りつつ、過去の合否判定データの再整理と試験制度別、志願状況及び歩留率等の詳細な分析を行い、安定的な学生確保に向けて入学者の確保を行っていく。</p> | 履行済 | |
| 設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年度) | <p>建築・設備工学科について、ここ3年間で入学生が増えているがそれ以前の数年間は定員割れの状況であったことも踏まえ、合格者数や歩留まり率等も含めて分析するなど、長期的かつ安定的な学生確保に努めること。</p> | 遵守事項 | <p>平成27年度以前の未充足から、学生募集戦略の強化を図り平成28年度より志願者が増えてきた。</p> <p>令和元年度入試においては、志願者が定員の2.45倍であったが、令和2年度入試においては、志願者が定員の3.46倍と増えてきている。平成28年度より定員を確保している。今後も志願者確保と合格者や歩留まり率等も含め、安定的な学生確保に努めていく。</p> | 履行済 | |

| | | | | | |
|--------------------------------|---|-------------|---|------------|--|
| <p>認可時 (令和元年度)</p> | <p>教育創造工学科について、卒業生の就職実績の状況を踏まえ、高等学校の教員需要にも留意しつつ、学生の就職志望に応じた支援の充実に努めること。</p> | <p>遵守事項</p> | <p>本学科では中学・高校の数学・理科の教員免許が同時取得可能であり、就職時に最大4つの中から進路を選択することが出来る。 平成30年度は、卒業生42名のうち22名が教育職を希望して全員が就職をした。この内21名は複数の免許状を取得しており、複数の教員免許状を取得したことが、進路の幅を広げると同時に就職に有利に働いたと推測される。卒業生42名のうち4種全ての免許状を取得した卒業生は10名であった。今後の教員需要の低下に対応するために、4種免許状取得を推進するカリキュラムの改変に取組み進行中である。今後、学生の志望に応じて、中学校教諭・高等学校教諭への就職支援に努める。</p> | <p>履行済</p> | |
| <p>設置計画履行状況調査時 (令和2年度)</p> | <p>教育創造工学科について、卒業生の就職実績の状況を踏まえ、高等学校の教員需要にも留意しつつ、学生の就職志望に応じた支援の充実に努めること。</p> | <p>遵守事項</p> | <p>令和元年度は、卒業生27名のうち、16名が教育職を希望し、15名が教職に就職した。卒業生の内、19名は複数の教職免許状を取得している。 今後においても、中学校のみならず高等学校教諭への就職指導を行っていく。</p> | <p>履行済</p> | |

| | | | | | |
|--------------------------------|---|----------------------|---|------------|---|
| <p>認可時 (令和元年度)</p> | <p>建築・設備工学科及び情報ネットワーク工学科の定員超過の是正に努めること。</p> | <p>遵守事項</p> | <p>平成31年度入学者判定会議において、過去の入学試験における志願者、合格者数の歩留率等のもとに合格判定を行った。平成31年度入学試験において、建築・設備工学科では一般前期入学試験において志願者数は前年度マイナス19%であったが、合格者数をほぼ同数とした。前年度と比較して、入学者の歩留率は35%から27%に減少したのに対して、センター試験利用前期試験においての歩留率が19%から28%と上昇した。平成31年度は、前年度に比べ志願者数で22%の減少、合格者数で12%の減少の中、結果として、1.23倍の入学定員超過率となり、年度により歩留率の予測が難しい状況であった。情報ネットワーク工学科では、31年度入試においては、模擬試験等の結果から全体的に本学を含め、併願大学の志願者が増える予想であったこと、他、本学の併願大学の大規模大学で昨年度100名近くの追加合格を出されていた事から、本年度の入試においては、歩留率が低いと予想していた。本年度は、志願者数が昨年度より1.26倍と増えたが、合格者数は昨年並みとしたが、歩留率が高く、入学者が増える結果となった。他大学の状況や本学の志願者や過去の歩留率等を考慮しながら合格者を出しているが、年度によって予測が難しい状況であった。入学した学生には、教育の面で支障がないように対応していく。</p> | <p>履行中</p> | |
| <p>設置計画履行状況調査時 (令和2年度)</p> | <p>建築・設備工学科及び情報ネットワーク工学科の定員超過の是正に努めること。</p> | <p>指摘事項 (改善)</p> | <p>建築・設備工学科は、令和元年度入試において、志願者が定員の2.45倍であったが、令和2年度には、3.46倍の志願者増となった。入試制度の最終年という事もあり、一般入試や大学センター利用入試の志願者の併願者が増える予想であったので、手続者が増えないように対応を考えていたが、推薦入試での志願者増となり全体の入学者数を押し上げた状況であった。</p> | <p>履行中</p> | <p>入試制度の改革や志願状況等の分析等を行い、指摘事項を改善できるように努める。</p> |

| | | | | |
|--|--|--|--|--|
| | | | <p>情報ネットワーク工学科は、令和2年度入試において、志願者が前年度より1.17倍の志願者増であったが入試制度の最終年度でもあり、併願者等も考慮し、入学者予想をし、一般入試と大学センター利用入試において、合格者を前年度より約30%減の合格者をだした。手続者は、前年度より26%減であったが、指定校推薦志願者増により最終的には、手続者増となった。</p> <p>次年度は、他大学の状況や歩留率等を考慮しながら合格者を出していくが、年度により予測が難しい。入学した学生には、教育の面で支障のないように対応する。</p> | |
|--|--|--|--|--|

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。